

『学内外における学生主体の建築活動（教育・研究・実践）』

参加学生、アドバイザー教員、事業委員会、研究委員会、シンポジウム実行委員会

1. はじめに

学生が主体となって活動している事例を共有する機会は少ない。ましてや、各々の活動について、離れた地域の学生同士が交流し、意見を交わす機会は稀である。2003年度北陸支部大会から始められた本企画では、日頃の勉学に加えて、積極的な活動を展開する学生チームに活動内容を発表していただき、作品や実演などを目にしつつ意見を交わした。

：頭川美帆・室岡維伸（石川高専、学生）

・2007年能登半島地震における建物被害調査と常時微動計測による地盤動特性解明（輪島市門前町道下地区・総持寺周辺地区を対象に）

：小野寺大・大關洋平（金沢大学、大学院生）

長野

・長野人／ながのじん

：柳通めぐみ（信州大学、大学院生）

・研究室におけるコンペ活動

：片岡篤史・兼子晋（信州大学、大学院生）

2. 概要

会場：信州大学工学部総合研究棟1階、大会議室

日時：7月15日（日）13:00-15:00

発表：北陸地区の大学・高専、計5チーム

参加者：50人程

5. 各グループの内容

5.1 fit／北陸けんちくデザイン学生団体

：山田寛・吉川和樹（福井大学、大学院生）

<プレゼン>

fitという団体を立ち上げた経緯や思いと現在行なっているプロジェクトを紹介した。fit=建築デザインを勉強しながら北陸でネットワークをつくっていく存在。

<討議>

越前市武生町屋改修事業のプロジェクトで、実際に学生が外に出て、町屋の内部を実測調査したり、現地の人とコミュニケーションを取るのには、大学の中では決してできないことだから、勉強になるという好印象をもっていた方が多数いた。

また設計会について、内輪で話し合っただけは避けたいという意見もいただいた。

信州大の建築の学生からは、長野では建築をしている大学が信州大しかないのでネットワークをつくるのが困難で、他大とのネットワークがつかれることがうらやましいとの意見もあった。

<感想>

建築は、ますます東京や大阪などの都市の一極集中の道をたどっている。それは、大学においても同じことが言える。地方の大学は取り残される。都市圏の大学だけ盛り上がる。そんな図式をぶち壊したいと思う。地方の大学や建築にしかできないこと。その方向性を少しでもfitがつくっていけたらと考える。まだ設立して3ヶ月しか経っていないが、そんな大きな野心や夢を忘れないでこれからも活動していきたい。

3. プログラム

司会（柳瀬）

・13:00-13:05 主旨説明（富樫）

・13:05-14:00 各チーム11分（準備1分／発表10分）

・福井：山田寛・吉川和樹（福井大学、大学院生）

・石川：頭川美帆・室岡維伸（石川高専、学生）

・石川：小野寺大・大關洋平（金沢大学、大学院生）

・長野：柳通めぐみ（信州大学、大学院生）

・長野：片岡篤史・兼子晋（信州大学、大学院生）

・14:00-14:45 フリー討議：

聴衆が各チームのテーブルに出向き自由に討議。

・14:45-15:00

フリー討議の内容を各チームが発表（1分×5チーム）

・教員からのコメント（下川、熊澤、深澤、坂牛、尾崎（埼玉県））

および全体の総括（桜井支部長）

4. 参加チームとテーマ

福井

・fit／北陸けんちくデザイン学生団体

：山田寛・吉川和樹（福井大学、大学院生）

石川

・「も～安心～河北潟を活性化させ、人を呼ぶ～」河北潟放牧除

草対策および沿道景観整備計画



毎週水曜日の設計会



実際に改修する予定の町家

5.2 「も～安心～河北潟を活性化させ、人を呼ぶ～」河北潟放牧除草対策および沿道景観整備計画

：頭川美帆・室岡維伸（石川高専、学生）

<発表内容>

河北潟除草対策および沿道整備計画として、河北潟の干拓地内での問題点を踏まえながら防風林（敷地）に牛を放牧するための計画を行った。

研究室内で柵のデザイン・シェルターの検討や模型制作などを行い、河北潟土地改良区に案を提出した。その後、施工会社との打ち合わせをして変更や修正を行い2007年7月に完成した。

<討論内容>

Q. 河北潟とは何なのか。

A. 河北潟は金沢市・津幡町・内灘町・かほく市にまたがる潟であり、3分の1が干拓されている。

Q. 普通に除草を行った場合の方が費用は安いと思うが、なぜ放牧による除草対策を採用したのか。

A. 今回は防風林150m区間に対する計画・実施案であったが、将来的には干拓地内総延長2.2kmの防風林除草・景観整備を目指す計画のモデルケースとなっている。現在でも除草対策の為の人

手が不足しているため人手がつかず除草・景観維持する方法が求められており、放牧による除草対策が採用された。今後は沿道整備計画などにより人を呼び込み河北潟のイメージアップによる経済効果など河北潟全体の問題の解決を視野に入れている。

<感想>

多くの意見やアドバイスをもらえたので、これから行う卒業研究に役立てられればよいと思った。授業以外でも、学生同士がお互いに高め合って活動している大学生の活動を知ることができ刺激を受けることも出来たのでとても良い経験になったと思う。



フリー討議風景



フリー討議風景

5.3 2007年能登半島地震における建物被害調査と常時微動計測による地盤動特性解明（輪島市門前町道下地区・総持寺周辺地区を対象に）

：小野寺大・大關洋平（金沢大学、大学院生）

<プレゼンについて>

2007年3月25日に起こった能登半島地震における被害調査についての発表を行った。発表内容は、輪島市門前町の総持寺周辺地区と道下地区の地震被害内容についてと、常時微動観測による総持寺周辺地区の地盤動特性について、である。

<討議について>

地震被害に対する感想を述べる人が多く、地震についての考え方を改めた人が多かった。また、耐震技術についてのアドバイスなども頂いた。

<感想>

シンポジオン全体を通じて感じたことは、他大学学生の行動力に圧倒されたことである。今まで自分たちで何かプロジェクトを起こそうということは考えたこともなく、大学生が何をしているのかということもあまり知りませんでした。そのため他大学のグループが行っていた内容に非常に圧倒されました。今後は、自分たちの研究でも他大学生を圧倒できるようになるよう頑張りたいと思います。



フリー討議風景

5.4 長野人／ながのじん：柳通めぐみ（信州大学、大学院生）

<プレゼン>

私たち長野人（ながのじん）の活動奮闘記を紹介。長野市のメインストリートから一步入った通りにお店を構える曲輪職人に出会い、そこからはじまった職人さんと学生とのコラボにより生まれた「あかり」はどこに出してもはずかしくない自信作。曲輪職人さんによる実演で普段みる機会の少ない伝統技術を皆様へみていただいた。

<感想>

今回のこのような場で、私たちのこれまでの活動とその成果を発表することができてとてもよかった。普段の活動では、「次に何をしようか」とか「この日までにアレをしなきゃ」というように前しか見ていなかったように思う。今回の発表の準備をするにあたり、これまでの活動を振り返り、当初の熱い思いをも思い返した。これで、今後の自分たちの進んでゆきたい方向も見失うことなく進んでゆける。また、これまで「あかり」への評価は、完成したことに対する自己満足だけであつたので、当日の自由討議でご来場の方々からご意見、ご感想をいただくことができてとてもよかった。「あかり」の発表とともに曲輪職人さんによる実演を実施することができ、すばらしい技術をもった職人さんが長野

にいることを紹介できたこと、また、多くの方がその技術を興味深くみていただいている風景を、私たち長野人はとてもうれしく思った。



あかり制作実演



あかり制作実演

5.5 研究室におけるコンペ活動

：片岡篤史・兼子晋（信州大学、大学院生）

<プレゼンテーション>

2006年度に研究室で参加した「KOKUEIKAN PROJECT」（沖縄・商業施設）と「山形大学工学部 100周年記念会館」（山形・ホールなどを含む記念館）の二つの実施設計コンペについての活動報告を行いました。（片岡・兼子）

<討議>

プレゼンテーションで示したコンペの概要とそれに対する研究室の設計の取り組み方を中心に、プランの詳細説明、模型制作の過程、コンペの結果に関してなど、時に専門的な助言もいただきながら多岐にわたって討議を行うことができました。実際の提出のパネルや制作した模型をディスプレイしたことも、多くの人に興味を持っていただけたことや討議の深みを増す一助となりました。（片岡・兼子）

<感想>

コンペの作品に対し、コメントをいただける機会が少ないので、訪れていただいた方々の様々な視点から作品を見直すことがで

き、よい機会となりました。また、他大学の活動には興味深い活動が多くいい刺激になりました。福井大「fit」の2人（山田君、吉川君）とは、シンポジオン後も研究室を紹介しながら建築トークをするなど、大学間の交流・意見交換に発展し大変充実した時間となりました。（片岡）

短い時間の中、研究室の活動内容を知って頂けたと共に、他大学の活動内容も聞くことができ、今後の活動の参考となった。また研究室を通じて機会があれば一緒に活動ができるように連携と交流を深めていきたいと思う。（兼子）



模型を前にフリー討議風景

6. まとめ（北陸支部長・桜井康宏）

2003年度から続いている「学生による語り合いのシンポジオン」ですが、第5回となる今年も信州大学の皆さんの多大なご尽力で継続することが出来ました。関係者の皆さんに心より感謝申し上げます。

年ごとに主たる活動内容や学生諸君の気風も変わって、われわれ教員にとっても刺激的で教えられることの多いこの企画ですが、今年とはくに設計活動に取り組むグループが目立ち、建築の原点ともいえる「用・強・美」の世界を改めて思い起こさせていただくと同時に、地元で連携する伝統工芸職人の「ものづくり」の神髄にも触れさせていただき、新鮮な心地よさを得ることが出来ました。地域と連携した多様な活動がますます広がり、ネットワーク化され、「北陸らしさ」として花開くことを期待すると同時に、特色ある支部活動の一つとして応援していきたいと考えています。